「新産業を生む科学技術」選考講評

選考委員長 長田 義仁

科学・技術にはこれまでにない新しい価値を創出し豊かで多様性ある社会を実現する力があります。不可能と思われていたAI、ICT、ロボティックス、ゲノム編集などが現代社会を大きく変革していることは日々どなたも感じている事でしょう。本プログラムは旧来の枠を超えた自由な発想によって、世の中にない独創的・革新的な科学と技術をあらたに生み出し、新しい産業を創出して社会にイノベーションをもたらす研究を助成することを目的としています。

第16回目の募集となる今回も数多くの応募がありました。ICT、ロボティックス、医療、生命科学、材料、環境、エネルギー、食糧など非常に幅広い分野から応募がありました。応募者の年齢は20歳代から70歳代まで広く分布し、女性の応募者は 14名でした。今回も例年どおり高いレベルの魅力ある提案をたくさん頂きました。

応募いただいた提案書は様々な分野からなる学識豊かな選考委員13 名によって丁寧に、そして慎重に審査されました。事前に、分野、年齢、性別、地域、所属機関などの配慮をしないことを確認したうえで、自由な発想に基づく創造性ある構想か、先駆的で高いレベルの研究か、新産業を生み出し豊かな社会を実現する構想か、といったことを重要な視点として審査しました。また、既存の枠を超えて社会が求める新しい学問領域を切り開く内容か、といったことにも留意して審査しました。

選考委員は、提案書に基づく 1 次審査、申請者のプレゼンも交えた２次審査を通じ、活発にそしてオープンに議論を重ねて最終的に 12 名（女性は１名）の提案を採択いたしました。ICT, 医薬、生命科学、材料、食糧、環境問題など、いずれも現代社会が抱える喫緊の課題に果敢に挑戦す

る、あるいはそれを先取りするような提案を選ぶことができたと選考委員一同は考えております。これまでなかった新しい視点からの発想や社会実装をより意識した提案があったことも今回の特徴でしょう。

研究は、極めて個人的で孤独な作業の連続で、精神的・肉体的負担も大きいのが常です。そのようなことを考慮し、キヤノン財団は課題採択後も随時、研究者を訪問して相談相手となり、予算使途や研究課題の推進について研究者の立場に立って相談にのっております。また、研究途上で予期せぬ問題などが生まれれば選考委員を交えて迅速に、そして柔軟に解決を図るようにしていることも本財団の特徴です。

めでたく採択された研究者の皆さんは、この栄えある機会を大いに活用し、失敗を恐れずに自ら描いた構想の実現を大胆に目指していただきたいと選考委員一同こころより願っております。